歴史を今に伝えて

川越市の地名②「連雀」

126

先月に続き、かつての経済活動にかかわる地名として、今回は「連雀」を紹介します。

現在の連雀町は「おびんずるさま」で親しまれる蓮馨寺と、その門前辺りの地名ですが、そう呼ばれるのは、明治時代になってからです。実はそれより三百年ぐらい前に、「れんちゃく（連雀）町」と呼ばれていた場所があります。それが、現在の大手町です。

ところで、連雀とは何のことでしょうか。連雀とは、たくさんのこまごまとした商品の入った箱を背中にくくりつけて持ち歩くのに用いた、幅広く組んだ荷縄のことです。連雀は、行商人を特徴付ける持ち物であったため、彼らは連雀商人と呼ばれていました。連雀の地名や伝承は川越だけでなく、同じ時代に城があった松山（現在の吉見町）・鉢形（現在の寄居町）・前橋（現在の前橋市）・高崎（現在の高崎市）などの、大手近くにも残っています。

中世までの商いは、城の大手近くに立てられた定期市が中心でした。江戸時代になってから、やや離れた場所に常設店舗が軒を並べるようになり、商いの中心が移ります。川越城下でも、西大手近くのれんちゃく町は江戸時代になると江戸町と町名が変わり、商業の中心は南町（現在の元町一丁目・同二丁目・幸町の一部）に移ったようです。

城下町としての川越を、「連雀」という地名からもうかがい知ることができます。

連雀商人

編集後記 どんぐり

セミの鳴き声は、いつの間にかスズムシなどに変わってきました。日も短くなり、秋の訪れを感じます。日中は過ごしやすく、体を動かすにはよい季節になりました▶これからは、学校や自治会などでも運動会が多く開催されるようになります。日ごろ、あまり運動をしていない方は、当日張り切りすぎて、ケガをしないようにご注意ください。事前の準備運動が大切です▶運動会の前にジョギングでもと思い立ち、近くの河原へ行きました。まだ、日ざしは強いのですが、風はさわやかにほほに当たります。周辺を見渡すと、河川敷でサッカーをやっている姿が見えました▶近くの田んぼは辺り一面黄金色に輝き、稲の穂先はとても重そうに垂れていました。もう、市内では稲刈りが始まりました。もうすぐ、おいしい新米を食べられそうです。

姉妹都市から、こんにちは！

オッフェンバッハ市／ヤン・ヘートシュテックさん（23歳）

両市の商工会議所の交換留学生として、川越に来ました。ドイツの大学で、日本学を研究しています。現在、日本のビジネスの方法を学ぶために、企業で研修中です。

蔵造りや時の鐘など日本の昔の建物を、川越で初めて見ました。川越には、文化があります。ドイツは日曜日に商店が休み、まちが静かになります。川越では日曜日になると、人が出てにぎやかです。観光客も多くなります。

きょうは野球を見学しています。ドイツでは普及していませんが、おもしろそうなので今度やってみたいですね。

＊外国籍市民の皆さんを対象にした催しは16ページ・18ページ、相談は26ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141

広報川越 1135

■発行日／平成18年9月25日（毎月10日・25日発行）
■発　行／川越市　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/
■編　集／市長室広聴広報課 〒350−8601 埼玉県川越市元町1丁目3−1・TEL049−224−8811内線2124
■印　刷／㈲新広社

広報川越は古紙100%再生紙を使用しています R100